北河内自然愛好会 会報

2019年4月30日№.105
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎3-7-7
西畑敬一　方

ホームページアドレス：http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm

○2019年度北河内自然愛好会総会

日時：2019年1月26日（土）　場所：交野市立保健福祉センター（交野ゆうゆうセンター）

総会議事（14：00～）1. 開会宣言　2. 西畑敬一会長挨拶　3. 2018年度行事報告　4. 2018年度会計報告　5. 2019年度行事計画案　6. 2019年度予算案

7. 『北河内の植物目録2018』発行について～愛好会創立30周年記念事業（西畑敬一・木村雅行）
北河内自然愛好会観察会400回に向けて～例会記録アーカイブス作成について（太田　理）

9.会長・会計・運営委員選出・紹介（西畑会長）会長：西畑敬一、会計：稲原良三、運営委員：太田理（会報編集）、稲原ヒサヱ、北川ちえこ、木村雅行、鈴木永子、平　研、高見君江、田中光彦、中町苓子、中山千代美、西村寿雄

※総会議事についてはいずれも了承されました。

10.会員発表（14：40～16：30）

1. 「クイズを当てて○○へ行こう」田中光彦さん
田中さんのクイズ：10／12問以上正解は粟田、高見、西畑さんの3人でした。
2. 「河川敷の花」木村雅行さん
ナヨクサフジ（弱草藤）、なよなよとした弱そうに見える名前ですが、草勢は強く、放置地を埋め尽くす。シロバナナヨクサフジ、マルバルコウ、ユウゲショウなど、侵略的外来種の話など。
3. 「石の話」西村寿雄さん
西村さんの『石は何からできている』岩崎書店刊2018.9.30　1800＋税　好評発売中
画像はカラーグラビア版で

2018年度行事報告（（　）内は担当者・敬称略）

1月2018年度総会1/21（日）　2月391回例会2/17（土）「鶴見緑地野鳥観察」（平　研）3月392回例会3/17（土）「野草を食べる—山田池公園」（稲原良三・西畑敬一）4月393回例会4/1　（日）「春の大仙公園・日本庭園」（西畑敬一）394回例会4/8　（日）自主参加「下田原の里山・里山一斉調査」（太田　理）5月395回例会5/26（土）「JR生瀬から武田尾廃線跡を歩く」（稲原良三）6月396回例会6/7（木）「神戸薬科大学薬用植物園見学」（田中光彦）7月397回例会7/1（日）「八幡男山（石清水八幡宮）観察会」（木村雅行）8月休会　9月398回例会9/29（土）「飯盛山のアケボノシュスランを見に行こう」（西畑敬一）台風のため中止　10月399回例会10/8「秋の淀川河川敷」（田中光彦）　11月400回例会11/17（土）「交野・星のブランコと紅葉」（稲原良三）11/30運営委員会

2019年度行事計画案（（　）内は担当者・敬称略）

1月1/26（土）2019年度総会　交野市立保健福祉センター（交野ゆうゆうセンター）
2月401回例会2/23（土）「鶴見緑地植物観察」咲くやこの花館に入ります。（西畑敬一）
3月402回例会3/16（土）「野草を食べる—山田池公園」（稲原良三）
4月403回例会4/14（日）自主参加：「下田原の里山・里山一斉調査」四條畷市（太田　理）
404回例会4/20（土）「春の宇治市植物公園」（田中光彦）

5 月 405 回例会 5/6（月・祝）「淀川河川敷の植物・ヒサウチソウ」（田中光彦）
6 月 406 回例会 6/22（土）「旗振山・ツチアケビの花」（中町苓子・稲原良三）
7 月 407 回例会 7/28（日）「金剛山鳩ヶ原・ヤマユリ」（田中光彦）
9 月 408 回例会 8/31（土）「室池園地・ナンバンギセル」（田中光彦・中町苓子）
10 月 409 回例会 10/6（日）「飯盛山・アケボノシュスラン」（西畑敬一）
11 月 410 回例会 11/9（土）「京田辺市神南備山・秋の木の実」（木村雅行）
12 月運営委員会 11/29（金）
※例会内容は変更になることもあります。会報発行時の「例会案内」でお確かめ下さい。
◎参加者：粟田泰子、稲原ヒサヱ、稲原良三、太田理、岡田三千代、影千恵子、北川ちえこ、木村雅行鈴木永子、高見君江、田中英明、田中光彦、長島照文、中町苓子、西畑敬一、西村寿夫、波多野恵子、発ひとみ、古沢千恵、美藤ルミ子、山田晃、山田良之、磯田恵、加治木秋男、篠田長政、丸山涼子（以上 26 名）　（記録：太田　理）

第 401 回例会「鶴見緑地の野鳥観察」大阪市鶴見区　2019 年 2 月 23 日　西畑敬一

暖かな朝の午前 10 時、鶴見緑地駅に集合、早速緑地公園へと向かう。遊歩道の左右にヌマスギとメタセコイアが等間隔に植えられ、冬空のなか赤茶けた葉が風に揺れていた。木々にはすでに雄花をつけているものも見られた。大池では、水鳥のカモの仲間の大群やアオサギ、ドバトに交じりカラスまでもが人の姿を見つけ餌をねだりに来る。間近で見るカモ達はそれぞれ羽根の色やくちばし、目の色が多彩で見分けるポイントを知るにはよい場所である。これほど間近で水鳥と触れ合える場所は少ないだろう。

ひとしきり水鳥を観察して進む。池のまわりの休憩場所で人の手から餌をとるスズメやアオサギを見ながら山のエリアに入る。しかしこの場所は昨年の台風 21 号による被害が甚大で、至る所に立ち入り禁止のテープが張られ行く手を阻まれる。改めて台風の凄さと被害の大きさを実感させられた。風車近くのバラ園の外周では大木がなぎ倒され無残な空間が広がっていた。

昼食を風車下の東屋でとり、午後咲くやこの花館に向かう。入場券を購入してそれぞれ館内に入る。この館は 5 つの展示室に区分され、それぞれ特徴のある植物を見ることができる。館内は暖房が効いていて蒸し暑く感じる。入口を入ってすぐに白い暖簾上の花が目につく。ランの一種、デンドロキルム・グルマケウムと言うらしい。熱帯雨林のエリアではスイレンが色とりどりの花を咲かせ、オニバスが大きな葉を広げていた。コブラオーキッドというランはその名の通りゴブラが鎌首をあげた異様な形の花穂を出し周囲に異彩を放っていた。サガリバナやギンネムの植栽もみられた。熱帯花木室では木の幹に果実をつけるイチジクの仲間のジャボチカバやカカオ、ロウソクの木、スターフルーツ（バンレイシ）などが見られバナナが青い大きな房をつけぶら下がっていた。バラミツ（ジャックフルーツ）やパンノキ、パパイヤなどの果実類も目を楽しませてくれた。田中さんの話ではバラミツは結構美味しかったということです。このゾーンでひときわ目についたのはトックリキワタという大木で、綿毛に包まれた大きな実を付けていた。散策路に実物が展示されていて触ると綿毛のような感触だった。花は見られなかったがヒスイカズラが頭上から長い花穂をぶら下げていた。ベニヒモノキや赤いポンポンのような花をつけたオオベニゴウカン（カリアンドラ）や大木となるカエンボクの花、ミラクルフルーツの実などを見ながら、イナゴマメと言うマメ科の植物に出会う。莢はまだ青かったが、この実の一粒が宝石のダイヤモンドの 1 カラットに相当することからダイヤモンドを量る指標となっていることが説明板に記されていた。この話は今年の総会の折、田中さんが会員発表で紹介されていたので記憶に新しいところである。

次に乾燥地植物ゾーンに入る。ここでは主に砂漠地帯で生育するサボテンの仲間や多肉植物を配植している。大きな球体で鋭い刺のサボテンの王様と言われる金鯱を始めとして様々な属のサボテンが植えられ、丁度マミラリア属の雪晃や月宮殿が輪状に赤い小さな花を咲かせていた。また面白い名前の植物も植えられていた。その名も亜阿相界といいマダガスカル原産でキョウチクトウ科のパキポディウム属に類するものである（ちなみに、亜阿相界＝和名のアアソウカイは原産地のマダガスカルが、アジア(亜細亜)とアフリカ(阿弗利加)の境界であることに由来する。小説家でサボテン研究家の龍胆寺雄が命名した。(ウィキペディアより)編集者注）。植物には変な名前のものもあるものである。多肉植物ではハオルチア類やアガベ、アロエの仲間などが植栽され、直植えされたキソウテンガイも見ることができた。

このゾーンを過ぎ、次に高山植物ゾーンへと入る。ここでは、ヒマラヤの青いケシやシクラメン、スイセンなどの原種をはじめとして日本の高山でもみられる植物も多いことから参加者の興味も一段と強くなった。主なものは、オキナグサ、ウサギゴケ、コマクサ、ゴゼンタチバナエゾスカシユリ、カタクリ、チャボリンドウ、ヒナソウ等が花をつけていた。その他外部庭園ではサボテン類の路地栽培がされていた。一通り観察を終えフラワーホールに降りてくると、ここではコーヒとココア展が開催されており、多くの来館者が味と香りを楽しんでいた。かなりゆっくりと植物を楽しんだので気がつけば午後３時になっていた。参加者の中には早く観察を終えられ、帰路につかれた方もおられた様だが、最後の挨拶をして各々帰路についた。参加者の皆さんお疲れさまでした。

◎重複するかもしれませんが、報告書以外の本日観察した主な動植物名を記しておきます。

公園大池：カワウ、ユリカモメ、アオサギ、コサギ、オオバン、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ホシハジロ、オナガガモ、アメリカヒドリガモ、ハシボトガラス、スズメ、ドバト、ハクセキレイ、

オヒルギ、ハイビスカス、ベトレア・ウオルビリス、ツンベルギア・マイレンシス、ビョウタコノキ、タギビトノキ、シロバナオオゴクラクチョウカ、ウツボカズラ類、バニラカトレア類、シンビジュウム類、金花茶、ハイドランツバキ（海棠椿）、ヘリコニア、ギンヨウアサガオ、コガネノウゼン、サラセニア（ヘイシソウ）、コエビソウ、セツブンソウ、ナルキスス類、シクラメン・ブラエクム（原種）、エゾノハナシノブ、ツバキカズラ、カナダオダマキ、ギンケンソウ、オキザリス・ウエリツシュコルム、クロユリ、ハエジゴク、ナガバモウセンゴケその他（記録：西畑敬一）

◎参加者：安藤香子、稲原良三、稲原ヒサエ、鈴木永子、田中光彦、長島照文、中町苓子、西畑敬一、発ひとみ、福間幹也、里見修（以上 11 名）

第 402 回例会「野草を食べる」山田池公園・枚方市　2019 年 3 月 16 日（土）　　西畑敬一

朝からの大雨、雷の中、どうなるものかと心配しながら集合場所の JR 藤坂駅に行く。幸い雨も小降りになり参加者も集まってきた。皆一様に今日はどうなるものかと心配しつつ集まってくれました。駅前であいさつののち、恒例の採集場所へと移動。最近は農道に除草剤が撒かれていることが多いので注意を喚起する。参加者は各自種類ごとに入れ物を用意し、早春の野草の採集に取り掛かる。採集場所の農道を農家の方たちが補修を行っておられ、邪魔にならないよう注意しながら採集作業を行う。道中色んな野草を採集しながら、目的地に向かう。終盤、穂谷川沿いの遊歩道には早咲きのカワヅザクラが咲き誇り、メジロやヒヨドリが盛んに蜜をついばみ、参加者の目を楽しませてくれた。

所定の広場には事前に稲原さんのご主人が準備を整えて待機してくださっていた。各人、採集品を慣れた手つきで分別し、女性の方たちが調理にかかってくれる。この仕訳から調理にかかる時間が忙しく、皆手際よく進めてくれる。そうこうするうちに料理ができ、稲原さん定番のヨモギダンゴやドーナツも出来上がり、遅い試食タイムとなる。配膳も終わり合図とともに皆一斉にはしを伸ばす。おいしい、あまい、にがい、いけるなど感想をいいながら、食材を平らげていく。一通り食べ終わったところ

で後片付けに入り、終了。今回は久しぶりに顔を見せてくれた男性会員もいて楽しかったです。参加者の皆さまお疲れさまでした。稲原さんに感謝です。
＜野草を食べる・メニュー＞
ヨモギ団子(きな粉、あんこ入り、みたらし団子)、ヒメヒレアザミ(てんぷら)、ノビル球根・葉茎（酢みそあえ）、フキノトウ(天ぷら)、アサツキ全草(酢みそあえ)、オオバコ(天ぷら)、カラスノエンドウ(天ぷら)、スイバ(天ぷら)、オオカワジシャ(天ぷら)、ツクシ(天ぷら、玉子とじ)、タネツケバナ(お浸し、胡麻和え)、オランダガラシ(クレソン)(お浸し、胡麻和え)、セイヨウカラシナ(お浸し)、ヤブカンゾウ(酢みそ和え)、スカシタゴボウ(天ぷら）、ニラ・アサツキ(お浸し
＜メニューに載らなかった野草＞タンポポ、ノミノフスマ、レンゲ、ギシギシ、ハコベ

§§「野草を食べる―山田池公園」　2019 年 3 月 17 日（土）曇り　　北川ちえこ

朝から大雨が降っていました。中止かなあと思い田中さんや稲原さんに電話を入れますと決行と言うことでしたので、そこから準備をして 1 時間遅れで家を出ました。皆さんにはとても追いつきそうもありませんでしたので、山田池へ直行しました。野草摘みができなく残念でしたが、車道沿いをのんびり歩きました。カラス、カスマ、スズメノエンドウがよく目立ちました。ヒメヒレアザミも点々と痛そうな葉を広げていました。この花のことはあまり知りませんので、大阪市内に多いアメリカオニアザミかと思いました。

同じくらいに摘み菜の方達と山田池公園に着き、今年はデジカメも壊れてしまいいつもの取材は止め、皆さんとツクシの袴をとったり野草を洗ったり、調理はいつもの天ぷらを手伝いました。余った衣はホットケーキミックスの粉と混ぜドーナツを作りましたら、沢山のネズミがやってきて始まる前にほとんど無くなり、昨年の冷えると硬いドーナツよりはるかにハイレベルだった事を実感しました。男性の木村さんがよくぞホットケーキミックス粉を持ってきていただいたと感謝です。

主役の野草ですが、西畑先生がいつも言っておられる新芽の軟らかいところを摘むという約束事が守られていなかったように思います。タンポポの和えものが無かったのはアク抜き用の重曹がなかったとのことです。そんなこんなでしたが、カラスノエンドウの天ぷら（歯ごたえがカラッとではなくもっちりしていた）、オオカワヂシャの和え物（にがかった）以外はほぼ無くなりました。

取材をしていませんでしたので記憶はあやふやですが、ツクシ、イヌガラシ、スカシタゴボウ、セイヨウカラシナ、ヤブカンゾウ、ノビル、スイバ、タネツケバナ、ノミノフスマ、タンポポ、ノゲシ、ヒメヒレアザミ、カラスノエンドウ、ニラ、アサツキ、ハコベ、ヨモギ等。（トッピング用の花）オオイヌノフグリ、ホトケノザ、セイヨウカラシナ、サクラ。（西畑さん差し入れ）ニラ、サツキ、フキノトウなどいつものメニューだったと思います。桜の花びらが甘かったのが新発見でした。帰り道、諸先生の案内で、白花のホトケノザ、イヌノフグリを久しく見ました。
◎参加者：稲原ヒサヱ、稲原良三、太田理、大津由紀子、北川ちえこ、木村雅行、鈴木永子、高見君江、田中光彦、東郷弘子、長島照文、中町苓子、西畑敬一、発ひとみ、古井秀子、山田良之、山田美鈴、妹尾雅弘、細川満佐秩、吹田幸恵・詩子・琴子、西村徹也、舩山真喜子（以上 24 名）

第 403 回例会(自主参加例会)「下田原の里山・里山一斉調査」四條畷市下田原 2019 年 4 月 14 日

太田　理

大阪自然環境保全協会との共催。今年で 25 年目になる。1994 年、新開発の田原ニュータウンの田原中央線の道路の真ん中にキツネが車に轢かれ死んで横たわっていた。えーっ?!キツネ??と思い、すぐ西畑会長に連絡。会長、尻尾を引っ張り上げて「これキツネや」そのことを保全協会に連絡。95 年から調査コースの一つとなった。その頃は「里山動物調査」として、主に里山に生息する動物が調査の対象でした。

ここ、田原の里山コースは別紙「里山一斉調査・田原の里山コース動物・鳥確認表（1995年～2018年）」を見ていただきたいが、フィールドサインでイノシシ（元はイノブタだそうですが、今はDNA鑑定の結果先祖返りしているそう）はほぼ毎年、キツネは13／25年、カスミサンショウウオは2000年以来毎年見つかっている。しかも、って駄洒落ではないですが、シカも当初は糞が見つかっていたのです。

天気予報は午前から雨。参加者はいるのかと心配しながら集合場所で待つ。保全協会からリーダーの前田さんたち2人。地元ビオトープの会の大澤さん、北河内自然愛好会の木村さん、粟田さん、一人見慣れぬ顔?!お聞きすると北河内のHPを見てと、以前にも一度参加したとの塚原さん。そして寝屋川の篠田さん。8名で出発。

飯盛霊園の桜並木はそろそろ散り桜に。「桜が消える?!」って先日テレビで見た。ソメイヨシノの寿命は60～80年くらい。戦後植えられた桜はそろそろ寿命を迎えて枯れてなくなる。ここの霊園ではそれでか若い桜に植え替え始めている。開発された街中ではあるがカンサイタンポポがそこかしこ。カラス、スズメ、いや草でノエンドウ、それにカスマも。ヒメハギが可愛い。尾根道はいつものピンク色鮮やかなコバノミツバツツジや足下のシハイスミレ、それにヤマザクラが咲き誇っていた。結果、リスのエビフライ、イタチの糞などが見つかっただけ。でも、アオモジもきれいに咲いていた。

薬尾寺池に下りてきた。下見で見つけていた緑の葉、木村さんに聞くとオオトンボソウだと。道端で踏まれないか、採られないかと心配。池の土手でノウサギの糞。その近くで粟田さんたちがコクランを確認。そしていよいよ池下の水溜まりへ。やっぱり無い!!カスミサンショウウオの卵のう。19年間毎年確認してきているだけに残念。以前は30～40個見られたが、ここ2年ほど2～3個しかなく、枚方高校生物飼育部の皆さんが飼育し、繁殖させて元のところに戻してくれていることを聞いているだけに期待していたが。夏原由博保全協会会長（名古屋大学教授）にメールすると、産まない年もあり、来年に期待しましょうと返ってきた。

道端にいろいろなスミレの花を見て、“焼酎一杯ぐぃ～！”と鳴くセンダイムシクイや鳥の声を聞きながら下りて来た。堂尾池まで行くのが通常コースだが、雨も降ってきていて、ショートカットで飯盛霊園のバス待合室でまとめの会をして終わった。皆さん、お疲れ様でした。

それにしても去年の台風の爪痕が凄い。大きな木があちこちバタバタ倒れている。でも道を塞いでいる木を伐って通りやすいようにしてくれている。堂尾池ハイキングコースは市道で市が、薬尾寺池への道はため池管理の土地改良区が整備。では尾根道は？どっかのNPOがやってたみたいとか、関電道だから関電がやったんちゃうかなどではっきりしないが、いずれにしてもありがたいことだった。

◎最後のまとめで確認したもの

★哺乳動物：イノシシ、イタチ、リス、ノウサギ、モグラ類

★鳥：ウグイス、オオルリ、ハシブトガラス、カワラヒワ、スズメ、ツグミ、ツバメ、ヒヨドリ、ホオジロ、メジロ、イソヒヨドリ、キビタキ、シロハラ、センダイムシクイ

★樹木：アオキ、アケビ、アセビ、ウワミズザクラ、コナラ、サクラ、ナガバモミジイチゴ、ニワトコ、ヒサカキ、モチツツジ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、アオモジ、ウスノキ、ウリカエデ、クサイチゴ、サルトリイバラ（以上、花、蕾）

★草花：カキドオシ、ケキツネノボタン、キュウリグサ、キランソウ、ゲンゲ、シュンラン、ショウジョウバカマ、タネツケバナ、ハハコグサ、ホトケノザ、ムラサキケマン、ムラサキサギゴケ、ヤエムグラ、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、ヒメオドリコソウ、ナズナ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、スミレ、タチツボスミレ、ツボスミレ、アリアケスミレ、キクバスミレ、シハイスミレ、ニオイタチツボスミレ、ヒメスミレ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフ

グリ、ハコベ、コオニタビラコ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、シャガ、ノミノフスマ、ハルジオン、ヒメウズ、ヒメハギ、ミツバツチグリ、ヤマネコノメソウ（以上、花）

§§＜参加者感想文＞四條畷・田原の里山コースに参加して　2019 年 4 月 14 日　　塚原　隆司

朝、薄日が差しているので飯盛霊園に向かう。天気予報では午後から雨の予報であったので、コースを一部変更しての調査となった。霊園を出て田原台の住宅地を進む。造成地には珍しくカンサイタンポポが多く見られた。スズメノエンドウとカスマグサの違いを教えてもらいつつ尾根道の入り口に到着する。尾根道はコバノミツバツツジでピンクのトンネル状態。アオモジやウスノキ、シュンランの花も見られた。またアケビ、ミツバアケビ、これらの雑種のゴヨウアケビの花の色や葉の形の違いを教えてもらう。しかし道沿いには昨年の台風で根元から倒れた木々やイノシシのラッセル跡も数多く見られた。さらに道を進むとリスの食痕（マツカサのエビフライ）やイタチの糞を見つけて立ち止まり、センダイムシクイやシジュウカラ、キビタキの声に耳を傾けた。尾根道から薬尾寺池へ。池の近くで期待していたカスミサンショウウオの卵嚢を今年は見られなかったが、ニホンアカガエルのオタマジャクシが元気よく泳いでいた。ウグイスやメジロ、オオルリの声に励まされて進むと道一面に咲いているキランソウやコクランの葉をみつけたりしながらハイキングコースを下って行った。ハイキングコースから住宅地にもどるとツグミやカワラヒワ、イソヒヨドリの声と姿が見られ、ツバメが飛び交っていた。畑の道にはムラサキサギゴケ、コオニタビラコ、ヒメオドリコソウが咲いていた。バス道に出て飯盛霊園に戻り、解散した。近くに住宅が迫っている環境でもたくさんの動物の痕跡があったり、貴重な植物が見られたりと充実の一日でした。

◎参加者：栗田泰子、木村雅行、太田理、篠田長政（寝屋川市）、保全協会関係（以上８名）

第 404 回例会「春の宇治市植物公園」宇治市　2019 年 4 月 20 日　　田中光彦

目的地に着いて先ず温室に入る。どこの植物園でもそうだが、ここでも珍しい花を付けた多くのラン科植物が迎えてくれた。とても名前を覚えられそうもない。ここはそんなに広くはないが、市立の植物園でこれだけのものを維持するのは大変なことだと思った。入園料が高いのも頷ける。因みに大阪市立の長居植物園には温室はない。ムユウジュの花が咲いていた。赤い幹をした竹のようなものが数本あって、アレハナンジャ?　と言いながら眺めていると、早速後ろからショウジョウヤシだという西畑さんの解説の声が続く。何を見てもたちどころに解説が入り、みんなして西畑さんを囲んでぞろぞろと牛歩のように進む。灰色の毛糸がもつれたようなものがぶら下がっていた。サルオガセモドキだ。こんなものがパイナップル科で黄色い花を咲かせるというから驚きである。ミッキーマウスノキも実をつけていた。赤い所は花の後で赤くなる萼（がく）だ。オオホウガンの木にも大きな花序の花が咲いていた。フトモモ科のピタンガのルビー色の実は、欧州のサクランボより美味しいと解説版に書いてあり、試食したかったが、みんなが真似ると実がなくなるので止めておいた。しかし、同じフトモモ科のジャボチカバには沢山の実がなっていたので、樹の下を探して落ちていた新鮮な実だけを拾い、後で洗ってみんなで一つずつ食して見た。甘酸っぱい、ブドウに似た味がした。

温室を出て、ぶらぶらとコナラ林の方へ歩いて下る。ジシバリが多く咲いていた。木村さんがその中から葉に切れ込みのあるものを見つけ、キクバジシバリだと教えてもらった。ミスミソウは実になっていた。ユキモチソウが咲いていた。ヒトリシズカも咲いていたので中町さんに言うと、見たくないと言って一人静かに歩いて行った。そのうち、腹へった、おしっこしたい、と叫ぶご婦人が出てきたので 12 時前だが花の広場で昼食となった。

昼食後、その場で逃げ出しと思われるアフリカヒメアヤメが 4、5 本咲いているのを観察してから、花木園の一角を通って池の方へ下る。途中はたくさんの品種の桜が満開で、一行は西畑さんの丁寧な解説に遅々として進まない。私は一人先に歩いては我慢していたタバコを立て続けに嗜むことにする。木村さんは何故か空になったペットボトルにタンポポの種子を集めて詰め込むことに熱中していた。桜の品種はカンザン（関山）が多かった。池の周辺を歩いている時、桜の樹に「イチヨウ」と札が掛かって

いるのがあって、ふざけたいたずらをするものだと言う人がいたが、それは桜の品種名だった。雌しべが一枚の葉に変形するので「一葉」と言うらしい。帰ってから調べてみると、雌しべが葉に変化する品種は意外と多いことがわかった。
池の周囲を回ってまた花木園とハーブ類の花壇の所へ出て登り道になる。ここでも桜が多く、ウコン（鬱金）やギョイコウ（御衣黄）もきれいに咲いていた。今流行りのヨウコウ（陽光）はもう花後だったのか見えなかった。トキワマンサクとベニバナトキワマンサクが満開の枝を広げていた。クレマチスの一品種が白い花を付けていた。萼（がく）片は 4 枚のものと 5 枚のものが半々だった。ムラサキ科のボリジ（ルリヂシャ）も下を向いて咲いていた。ムベやキバナオドリコソウも咲いていた。タイム（タチジャコウソウ）も花盛りだった。
　好天に恵まれた一日だった。少し早い時間に終わったので、帰りは駅まで歩いてみようと提案したが、暑さの所為か年のせいか、賛成は約 1 名だったのでバスで帰ることになった。市街地の舗装道路ばかりで見るものもないコースなので私もホッとしたことでした。久しぶりにのんびりできて、楽しい一日でした。みなさん、ありがとうございました。
◎参加者: 粟田泰子、稲原良三、稲原ヒサヱ、木村雅行、田中光彦、中野潤子、中町苓子、西畑敬一、細川満佐秩、川﨑節子、里見　修　（以上 11 名）

§§ 投稿「昆虫食について 1」　　**田中光彦**

　最近読んだ本に書いてあったことですが、金沢市の中屋彦十郎薬局が今でもヘビトンボの幼虫である孫太郎虫を販売していて、値段は 5 匹で 54,000 円、2018 年 11 月の時点で、残りわずか、再入荷の見込みはないということです。昔から高価な和漢薬だったそうですが、ヘビトンボ自体が珍しい現在、希少で貴重な昆虫食の代表と言えそうです。
　また、2017 年の夏に、東京都墨田区の、ある公園に次のような掲示板が立てられたそうです。『公園の動物・植物・昆虫を採集して食用にすることを禁じます』そこには英語・中国語・タイ語も併記されていて、昆虫の所が英語では Cicada（セミ）となっていたということです。在日タイ人が夏に毎日何百匹もセミを採って食べているという情報もあるそうです。埼玉県の公園でも 6 月に大量のセミの幼虫を採る人が目撃され、植樹している樹の根元あたりを穴だらけにされた公園側が食用でセミを採るのは止めるように掲示板を出して話題になったそうです。
　2013 年に国連が昆虫食を推奨することを発表してから、学校給食に昆虫食を取り入れようというような運動もあるくらい、未来の食糧難と環境にやさしいという観点から、今、昆虫食が注目されています。北河内自然愛好会も野草を食べるだけでなく、昆虫食にもチャレンジしてみてはどうでしょうか。春は野草、秋は昆虫、カミキリムシ、クリムシ、イナゴ、バッタ、コオロギ、カマキリ、ジョロウグモ、ミミズなど食材には困らないと思います。
上記のセミですが、クマゼミなら素手でも捕まえられるほどたくさんいるので、少し間引いた方が良いと思います。成虫も幼虫も素揚げにして塩胡椒で食べられるので調理も簡単です。食べ慣れるまでは羽を取った方がいいかもしれません。クマゼミより小さくて食べ応えがないがアブラゼミの方が食べやすく美味しいという話です。昨年の「第 8 回関西虫食いフェスティバル」（ネット検索してみて下さい）は伊丹市の昆陽池の近くで開催され、周辺で多くのクマゼミを採集して試食されたと聞きました。少しカメムシの話も。カメムシは塩や調味料をかけて炒めて、ご飯その他、ふりかけにして食べたり、野菜や調味料と混ぜて潰してペースト状のディップにし、これをつけ味噌のようにご飯につけて食べるのだそうです。マルカメムシとツノアオカメムシはパクチー味のエビのシッポという感じだけど、パクチーよりマイルドで、パクチーは嫌いだが、これは食べられる、という感想の人がいたそうだ。キマダラカメムシとクサギカメムシも多分同じ味だろう。ツマキヘリカメムシはリンゴっぽいフルーティーな香

り、ホオズキカメムシは青リンゴとキュウリを足したようなさわやかでフルーティーな香りがするそうだ。カメムシにもいろんな香りがあるらしい。いずれにしても高タンパク、低脂肪の健康食品で、ジビエ料理によく合うと思われる。

《会員交流コーナー》＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

§§＜寝屋川市展示会＞寝屋川市自然を学ぶ会が中心となって、展示会が催されます。

期間：2019 年 1 月 26 日～22 日 会場：寝屋川市アルカスホール 1 階ギャラリー

展示内容：1.本会の今年の活動記録 2.会員の皆さんの「私の自然観察」3.関係機関・団体の活動紹介北河内自然愛好会の展示（昨年同様、田中さんの身近な草花の写真）もしていただきます。学ぶ会の山田晃さんですが、もう一つお申し出をいただいています。添付しています『わたしたちのまち寝屋川の自然』（寝屋川市　平成 3 年 5 月 3 日　606 ページ）、同『増補版』（寝屋川市　平成 8 年 5 月 3 日 268 ページ）共全 2 冊を 5 セットご提供いただけるとのことです。詳しくは北河内の総会でご本 2 冊をご覧いただくようにしたいと思っています。よろしくお願いいたします。（1/15・太田理）

§§＜くろんど池＞水曜の午前中、貴重な私の時間。いつものくろんど池コースのドライブ。この池のこの冬のカモはいつ行っても何故かオオバンとヨシガモだけ。そしてこの 2 種はいつも仲良くくっついています。（1/16・平　研）

§§＜北斎の冨士に鶴＞北斎の富嶽三十六景の中に、正月に適したものはないかと探したら、ありました。富士山に丹頂鶴 2 羽が飛んでいて、麓にも 5 羽が遊んでいます。彫りが浅くて彫り映えがしないとは思いましたが、彫ってみました。ご笑見ください。こんなことをして外に出れないウサを凌いでいます。（1/19・平）

§§＜いだてん＞NHK の日曜ドラマで「いだてん」が始まりました。画面に出て来た主人公の金栗四三さんの生家は、私の生家から約 2 キロのところで、以前は隣村、今は合併して同じ町（和水町）です。旧制中学時代にその近所に友達がいて、何度か四三さんの家を覗きながら通ったことがあり、懐かしく見ています。でも今、ロケで出てきている熊本の田舎の場所はその地域ではなく別の、私の知らないところです。四三さんは私の兄が通っていた旧制玉名中学の先輩で、マラソン選手の金栗さんの話は子供の時聞かされていました。日曜の夜が楽しみです。（1/20・平）

§§＜会員の本の紹介＞『石は　なにから　できている？』「ちしきのポケット」23 岩崎書店　1600 円 西村寿雄著　武田晋一写真　ボコヤマクリタ構成

石には、どんな種類があり、どんな成り立ちがあるのでしょうか。この本は、石に興味をもった子どもが、最初に開く一冊にふさわしい本です。

月の石と地球の石との対比から始まる本書。月にはなくて、地球にあるものってなんだろう。子どもの好奇心を刺激し、身近な石ころが地球や宇宙と深くかかわっているという視点に目を向けています。

川原でよく目にする 8 種類の石が出てきます。白っぽい石、黒っぽい石、つぶつぶがあって光っている石、ざらざらの石、すべすべの石。石の粒に目を向けた本です。花崗岩、安山岩、玄武岩といった名称も、あえて本編では書いていません。目の前の石をじっくり観察し、石になじんでもらいたいという思いからです。

◆石のつぶに注目！子どもにもわかりやすい「石の見分けかた」

本書では、「石につぶが見えるか、見えないか」「つぶがキラキラ光るか、光らないか」で、石のできかたの大まかな見当をつけています。つぶがキラキラ光っている石は，石の結晶が見えていることになり，マグマ生まれの石だと見当がつきます。

◆巻末にはやや専門的な解説

巻末では、地球の石と「マグマ」「水」「生き物」との関係など少し専門的な解説を入れています。

マグマから生まれた石も，地殻変動や火山活動など、地球に起こるさまざまな現象によってさまざまな種類の石に生まれていることを書いています。それには，地球上の「水」が大きく関係していることを知ります。地球のさまざまな石は，水の惑星地球ならではの石なのです。石の名前が気になる人のために、本文の石については名前もわかるようにしています。

◆著者からのメッセージ

地球は、美しい石がたくさん生まれている惑星です。石は、長い長い地球の歴史をゆっくりとつないできた「生き証人」です。あなたの見ている石は、ひょっとして三葉虫が生きていたときの石かもしれません。恐竜が生きていたときの石かもしれません。身近な石をきっかけに、石や地球により興味をもってもらえるといいなと思います。（1/27・西村寿雄）

§§＜くろんど池＞今日もくろんど池コースを走りました。池には、相変わらずヨシガモとオオバンの群れ、きょうはそれにカイツブリが群れで混じっていました。（2/1・平）

§§＜雄たけび＞山のテッペンで大声を張り上げて叫んだ若い時のその声とその気持ち、極度に高揚した雄叫び、90 歳を超えて懐かしくキジに託して彫りました。日本の国鳥、交野の市鳥、その雄叫びは 20 年前ごろまでは天野川の河川敷で聞くことができ、家にいてもあちこちから聞こえてきました。2 月、キジは繁殖期に入ります。縄張り宣言の雄叫びと勇壮な母衣（ホロ）打ちが聞こえてくる季節です。（ほろうち＝キジやヤマドリなどが翼を激しく羽ばたかせ、音をたてること。『大辞泉』—編集者注）耳を澄まし、その元気をもらいましょう。かつては交野市の年中行事で、キジの若鳥の放鳥が市民参加で行われていました。（2/12・平）

§§＜炬燵からの BW（バードウォッチング）＞野外で鳥を訪ねることが出来兼ねているこの身、わずかに炬燵から庭に来る鳥を待っていますが、この冬、姿を見せなかったヒヨが椿にやってきて、椿の蜜を舐め、花びらをかじって「こりゃ美味い」と叫びました。炬燵から写しました。この頃餌台には、スズメ、ヤマガラ、メジロ、キジバトが姿を見せています。往年のようにシロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、アオジ、カラの混群などはここ数年来なくなりました。今日の午後は、野鳥ならぬ訪問看護リハビリの作業療法士が来ることになっています（2/14・平）

§§＜餌台のスズメ＞自然界に木や草の実が乏しくなってスズメが餌台によく来るようになりました。昔話にもよく出てきて、人間に一番近い鳥で、作物を挟んでいざこざはあるが、よく見ると可愛い鳥です。この鳥がいると他の鳥も、そこに餌があり、安全な場所だと理解して餌台に寄ってきます。餌台のスズメは安全指標鳥となっているのです。スズメの餌は欠かしたことがありません。（2/16・平）

§§＜庭のアオジ＞庭に播いたスズメの餌に、この冬初めてのアオジがやってきました。7～8 年ほど前までは、毎冬来ていて、4 月には隣りの庭のスギの木でよく囀りました。趣のある控えめの声で、そのメロディに和みがあり好きです。この春聞きたいです。（2/21・平）

§§＜関西水彩画展＞岡田三千代さん出品の「関西水彩画展 2019」のご案内です。3 月 12～17 日いつもの大阪市立美術館地下展覧会室で開催されます。今度はどんな絵が見られるのかな。（2/25・太田）

§§＜ヤマドリの彫刻＞キジの次はヤマドリ。河村さんが何年か前、星田の山で撮影されてメールに配信されたものを摸彫させてもらいました。ヤマドリはキジの仲間で日本固有種、日本にだけしか棲んでいません。こんな派手な鳥が日本にだけ、どんな発生と進化をしてきたのでしょうか。それが交野の山ではあちこちで見られる。“トリキチ”にとってなんと幸せなことでしょうか。この鳥の母衣うち（2/12 平さん記事参照）はキジよりも迫力があり、谷を隔てて腹に響きます。普通、キジと棲み分けしており、キジは山すそ近く、ヤマドリはキジよりも山奥に棲み競合を避けた賢い生き方をしていますが、ヤマドリが山すそに現れることもあります。（2/27・平）

§§＜くろんど池＞家内の DS（デイサービス）の午前中、例のくろんど池コースを走りました。くろんど池では、大相撲の浅香山部屋の力士たちが改築された稽古場で、大阪場所に備えて稽古していまし

た。それを小学生たちが見学に来ていました。野鳥は池ではいつもの通りヨシガモとオオバンだけが泳ぎ回っていました。樹下ではツグミ１羽だけ、寂しく歩いていました。（3/1・平）

§§＜ヒヨが食べたツバキの花＞庭のツバキの花をヒヨが食べ散らしました。どんな食べ方をしたのかと見に行きました。1は食べられない花、2は食べられた後です。メシベとオシベが全部なくなっており、花びらも少なくなっていました。花弁は千切って散らかしたのもあるようでした。勿論蜜を舐めたあとで食べたのでしょう。これがヤブツバキであればキガシラヒヨドリとなったことでしょう。ヒヨもジックリと見れば面白い鳥です。（3/2・平）

§§＜田原でカスミサンショウウオ展示＞3月9日、10日当地では「まつり in 田原」のイベントがグリーンホール田原で催されます。舞台や展示、屋台などがあり賑わいます。私たちの会で環境展示をしようということになり、田原の自然や天野川生き物調査など、パネル展示を計画しています。写真だけではインパクトがないということで枚方高校生物飼育部が田原のカスミサンショウウオの飼育をして、絶滅危惧から守る活動をしてくれているので、その実物展示をしてくれることになりました。天野川の魚も持って来てくれます。カスミサンショウウオは水溜りの中にはいるのですが、その姿はなかなか見れません。この機会に皆さんにも観察していただけたらとお知らせします。（3/6・太田）

§§＜餌台のメジロ＞戴いたナツミカンが酸っぱかったので、庭の餌台に置いたらメジロが2羽やってきて美味しそうに食べました。私の味覚とはだいぶん違うな。（3/7・平）

§§＜山を歩きました＞今日、家内のDSの間、生き物ふれあいセンターから北へと山を歩きました。3月の陽光が気持ちよく歩いていたら、何か動いているものがある。老眼ではわからず、カメラのズームを利かして写したらシロハラでした。鳥はそれだけでしたが、自分のペースで山を歩いて気が晴れました。（3/9・平）

§§＜教えて＞さて、添付の写真はオニノゲシでしょうか。現物は見ていませんが押し葉標本をもらいました。乾いて分かりにくかったのですが、抱いた葉の下は丸いです。写真でもそのように見えます。2018年12月17日大阪市西淀川区出来島小学校。回答がなければ16日に標本を持っていきます。実物を見てお願い致します。（3/9・北川ちえこ）

§§＜回答＞野草を食べる会の時持参された植物の件ですが、オオバコのようだと言っていたものは、近植総会で聞いているうちに、ナンヨウスギの一種ではないかという意見があり、帰宅後調べて見ると、どうやらナンヨウスギ科ナンヨウスギ属のAraucaria heterophyllaシマナンヨウスギ、別名コバノナンヨウスギ、通称アローカリアで世界の三大公園樹の一つではないかと思いました。ニューカレドニア原産だそうです。一度ご自分でご確認下さい。（3/17・田中光彦）

§§＜同定？＞忙しくて、なかなか確認できなかったのですが、今日、淡路島の夢舞台「奇跡の星の植物館」と言う大きな温室で展示されていました。まさに、シマナンヨウスギでした。この温室は本当に大きく、ゆったりと見る事ができ、見たことの無いような珍しい植物が満載でした。特にラン科の種類が多かったです。展示のし方には違和感を覚えるところもありましたが、気分転換にのんびり見るにはいいところでした。（4/7・北川）

§§＜ピラカンサ＞ふと見上げたら、庭のピラカンサがいつの間にか坊主になっていました。ピラカンサは秋の終わりから冬の初めにかけて赤い美味しそうな実をいっぱい付けるが、庭に来たシロハラ、ツグミ、ヒヨ、メジロなど、鳥は見向きもせず、食べようとはしません。この実は不味いのかなと思っていました。ところが冬の終わりから春の初めにかけて、いつの間にか食べられて坊主になっています。「なんでやねん」と考え込みました。秋には多くの木の実が色づきます。これらが一斉に美味しくなったら一斉に食べつくされて、長い冬の間の餌がなくなってしまいます。一様に色づいても、美味しくなる時期は長い冬の間、春のムシが発生するまで順番に食べられるようにしなければ鳥は飢え死にすることになります。そこで長い冬の間の鳥の餌の木の実の味を調整したのが「天の配剤」とでもいうか、宇

宙の営みというか、人知の及ばぬところで、鳥も木もお互いに気脈を通じ合って生きている神秘な有様に溜息をつきました。（3/24・平）

§§＜くろんど池＞今日、月曜の午前中は我が時間、いつものくろんど池コースを走り、池でカモに遊んでもらいました。オオバンと群れるヨシガモが、陽に映える首筋をこれ見よがしに、伸ばしてくれました。何とか写せました。（3/25・平）

§§＜寂しくなった庭の餌台＞冬から 3 月中頃まで、しょっちゅう庭の餌台に来ていたヤマガラ、メジロ、ヒヨ、キジバトなどの姿を見せる回数が減ってきて、今ではヒヨ 1 羽とスズメが 2～3 羽時々姿を見せるほどになりました。それぞれが繁殖期に入り、営巣の場所を選定して、巣作り、抱卵しているのでしょう。この冬からこの餌台で栄養を蓄えたその体で、丈夫な雛を育ててくれることでしょう。その雛が親に連れられてこの餌台に来てくれたら嬉しいです。（3/28・平）

§§＜星田園地＞今日午前中は私の時間、バイクで星田園地に行ってみました。ハヤブサは見えませんでした。大きなカメラ 3 台据えていた人たちもキョロキョロしているだけ。駐車場からの架道の手すりにはケムシの群れが私を迎えてくれ、満開のコブシがあちこちで純白の花を誇示していました。（4/1・平）

§§＜星田新池の桜＞今日の投票の帰り、星田新池に立ち寄りました。久しぶりのこの池の土手の一本桜と池下の桜が、春の陽を浴びて満開の花を誇っていました。池の水面には水鳥の姿はなく、山の若葉とモチツツジの花を映していました。春の真ん中に身を置くことができました。（4/7・平）

§§＜カラスの行水＞今日、藤が尾の A コープに買い物に出たついでに、天野川を覗いてみました。鳥影が少なくなった川で迎えてくれたのは、一羽のカラスでした。このカラス、カメラを向けたら行水を始めました。カラスの行水といえば言わば瞬間的な行為のはずだが、長い間、何度も何度も繰り返して水浴びしました。私へのサービスだと嬉しくなり、何度も写しました。動画にしたらよかったのにと、あとで後悔。（4/16・平）

§§＜くろんど池の水＞土曜 7 時前コースのデイサービスを新たに契約したので、昨日土曜日の私の自由時間をバイクで、くろんど池コースを走り、池からくろんど園地へと「さわわたりのみち」を歩きました。しんどかったです。休み休みやっと歩けました。帰りは獅子が丘から池へと、くろんど園地へ流れ込む溝沿いに池へと歩き、この流れの水源がくろんど池でないことを知りました。くろんど園地へ流れる水は獅子が丘の方から流れてきて、くろんど池の水は一滴も大阪側（くろんど園地）へは流れていないことがわかりました。昔から水争いを経た水配分の厳しさはどこの地域にでもあることだが、ここにもその厳しさが見えました。今日のくろんど池にはオオバンもヨシガモも去って、只カワウが 1 羽だけ時々頭を出していました。（4/21・平）

§§＜キタキチョウ、星田＞月曜午前、私の時間、星田園地へバイクを飛ばしました。キタキチョウと希少種の雲仙つつじが迎えてくれました。ハヤブサの広場では、河村さんのカメラで、枝に止まっているハヤブサを見せてもらいました。（4/22・平）

◎異動（敬称略）

退会：藤原くに代（岸和田市・1/23）　岸　幹雄（大東市・1/29）　奥田久美子（枚方市・2/2）
　　島田重子（東大阪市・3/29）

入会：磯田　惠　四條畷市（1/26）　妹尾雅弘（門真市　3/16）（再入会）　細川満佐秩（交野市・3/16）里見　修　大阪市北区（4/20）（再入会）

◎編集後記：世は「平成」から「令和」の時代に。役所などは元号使用ですが、歳の勘定が･･･。この春、山に入って、昨年の台風 21 号の凄まじい惨禍を目にしました。台風の脅威は尋常ではありませ

ん。地球温暖化の影響か。それとともに気になるのは”トイレなきマンション”と危惧されている原発。2011 年 3 月 11 日東日本大震災を忘れないようにしたいものです。（太田）

【諸連絡の窓口】　◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114
◇会費の納入・会計に関して：稲原良三　072-892-8507
◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665　会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。　ma36ux75ml@kcn.jp　〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会　年会費 1000 円　郵便振替　00970-4-103735

目　次

2019 年度北河内自然愛好会総会　記録：太田理----------1
第 401 回例会「鶴見緑地の野鳥観察」西畑敬----------2
第 402 回例会「野草を食べる」西畑敬一----------3
「野草を食べる一山田池公園」北川ちえこ----------4
第 403 回例会「下田原の里山・里山一斉調査」太田　理----------4
「四條畷・田原の里山コースに参加して」塚原　隆司----------6
第 404 回例会「春の宇治市植物公園」田中光彦----------6
投稿「昆虫食について 1」田中光彦----------7
会員交流コーナー----------8
異動、編集後記----------11
カラ―グラビア版----------別刷
例会案内----------別刷

岡田三千代さん画「アジサイ」
（カラ―グラビア版でご覧ください）